

# 翻刻 磐水先生著述書目

杉本つとむ

## 解題

本稿は、早稲田大学図書館所蔵、洋学文庫の『磐水先生著述書目』（函架番号、文庫8・A9）を翻刻したものである。同書の体裁は、大きさが、縦三五耗×横一〇耗、袋綴、四針眼。表紙は薄茶色、外題は〈磐水先生著述書目〉（書き題箋）とある。紙数は全部で三八丁、ただしはじめに、「魯西亜来貢紀事」（全二丁）の一部が合綴されており、本文中に遊び紙が一丁あるので実質的には三五丁となる。旧蔵者は大槻氏で、〈早稲田文庫〉・〈大槻文庫／大槻文彦蔵〉〈大槻氏印〉の各印願がある。またはじめの「魯西亜来貢紀事」の終りに、〈磐水録眞〉として、〈平茂實印〉（陰刻・方・朱）の印願がみられる。ただし、後にこの部分は他から切りとって貼付したものである。全体は約四つの分野に分けてまとめられている。したがって最初の〈引〉は〈文化改元甲子秋〉（一八三三）とあるが、これをもっとも古いもので、新しいものは天保二年（一八三一）となっている。

〈引〉はしかし玄沢という人物を考えるうえからなかなか興味ある内容をふくんでいる。公私大多忙という玄沢の様子が推測される。そして同志と蘭学を大成すべくひたすら努力精進している姿はすさまじいばかりである。〈日以テ夜ニ繼キ春宵ノ短キ。必ス燭ヲ秉テ書室ニ閑坐シ彼レニ參ヘ此ニ考ヘ筆硯廢セス或ハ三更ヲ期シ或ハ不覺シテ鷄鳴ニ至ル〉と。さらに〈一言半句一章一條

トイヘ庄二日三夕。五夜十期。熟考精思。忽然トシテ頓悟スル……とも述べている。多少レトリックもあるだろうが、新しい学問と未知のコトバにたち向かった先人の真摯な態度がしのばれる。しかも一種のバイオニアとして、〈欲レ成ニ二事、者ハ減ニ二事〉というモットーをっかけ、これを守るべきとする。しかも、〈余カ好事ノ性癖已ミ止ムヘカラサル〉として、たとえ雑篇といえどもこれを辞せずに書きつづっていったのである。

世のいわゆる〈蘭學者流〉もいささか批判しているようであるが、そうした中で〈瘍醫新書譯說ノ大成〉を期している知命(五十感)に達した玄沢の獅子奮迅ぶりが眼前に浮かぶようである。すべて二百五十篇の総目を示し、蘭学に志す人びとへの指針ともしようと意図したというわけである。さらに玄沢死没後、子の玄幹が補足をおこなって完結している。

なお宮城県立図書館にも同じような写本(蘭腕摘芳・瘍医新書の目録をのぞく)が所蔵されていたが、戦災で焼失した由、池田哲郎氏によって書写されたものが現存している。

翻刻にあたって、仮に丁数を与え、で改丁を示したほか、原則として、すべて原本どおりにした。ただし漢字字体は旧字体に統一、熟字符はこれを省略した。また○点は、点で代行した。内容及び印刷の性格上、本文は上・下二段の体裁に変更した。また仮に目次を付して読者の便宜をはかった。なお翻刻にあたり、早稲田実業学校講師、岡田袈裟男氏の協力をえた、記して謝意を表する。

〈目次〉

引	3
翻譯和蘭醫籍部	6
印行書目／脱稿書目／起草譯說類	6
新瘍醫新書總目	7
蘭腕摘芳初編目錄	16
六物新志續編目錄／蘭腕摘芳次編目錄／蘭腕摘芳	16
三編目錄	27
大槻茂楨による識語／蘭腕摘芳四編目錄	27
與校正譯說書目	27
雜著並編輯書目	28

## 磐水先生著述書目引

和蘭ノ醫術ニ於ル其書冊ハ浩博ニシテ其義理ハ精微ナリ我磐水先生夙トニ斯道ノ爲ニ利ヲ興<sup>ス</sup>ントシ專ラ其浩博ナルヲ翻譯シ其精微ナルヲ闡明ス積年ノ久キ起草鬱然トメ堆ヲ爲セリ出テハ則官務診治ノ旁午。入テハ則四方同臭ノ問難應酬ト門下弟子ノ誘導啓發。連月六次ノ會講。社弟新著ノ校正考訂ノ類。酬フレハ又至リ」  
1オ 掃ヘハ又來ル先生怡然トメ之レニ處<sup>キ</sup>リ敢テコレヲ謝絶セス閑ヲ偷<sup>ス</sup>テ筆ヲ執リ汲<sup>ミ</sup>トメ怠リ給ワス蓋斯業獨學ノ周フスヘカラサルコヲ知り同志ト共ニ此道ヲ大成セント欲メナリ然レ百事ノ輻湊倚疊スル容易ク事ニ從テ果スヘキニアラス是ヲ以テ日以テ夜ニ繼キ春膏ノ短キ。秋夜ノ長キ。必ス燭ヲ秉テ書室ニ閑坐シ彼レニ參ヘ此ニ考ヘ筆硯廢セス或ハ三更ヲ期シ或ハ不覺<sup>シ</sup>1ウシテ雞鳴ニ至ル實ニ先生過絶ノ大氣力。小子カ輩

翻刻・磐水先生著述書目

惰慢懶性ノ企テ及フトコロニアラス。近日聲譽ノ天下ニ轟ク所以ナリ既ニ印行ノ世ニ行ル、所ノ諸書多シトイヘ<sup>レ</sup>凡<sup>ソ</sup>皆是斯ノ大業ノ緒餘ニ<sup>シテ</sup>先生ノ本意トセサルモノナリ又聞見ノ及フ所。他ノ諸説トイヘ<sup>レ</sup>凡<sup>ソ</sup>記メ以テ後鑒トナルヘキモノハ録ノ洩サス抄ノ置カス故ニ亦此類ノ著書雜編若干卷。其才。實ニ有<sup>リ</sup>餘<sup>リ</sup>トイフヘシ彼翻譯ノ著<sup>ル</sup>2オ述ノ如キハ尋常ノ雜撰。自適平易ノ述作ト比スヘカラス海外千里隔絶ノ遠西書典。其字ハ蛟脚蟬行。其文ハ奇語異言。就テコレヲ考究解了シ其意ヲ會通シ其義ヲ明釋シテ國語國文ニ改譯シ遂ニ漢文トナス譯文ノ修飾ハ人ノ手ヲ假ルモ尙<sup>テ</sup>成スヘシトイヘ<sup>レ</sup>彼ヲ以テ此國言ニ解スルコトニ至テハ爲シ難キ所ナリ余輩每<sup>テ</sup>ニ傍觀シテ親シク其沈研潛思ノ勞ヲ知ル書中其義ノ解ス可<sup>ク</sup>2ウラサルノ所ニ至リテハ一言半句一章一條トイヘ<sup>レ</sup>凡<sup>ソ</sup>二日三夕。五夜十朝。熟考精思。忽然トシテ頓悟スルコトアリテ始テ其義釋然タルニ會<sup>ス</sup>ハ欣々獨喜シテ節ヲ擊チ。歡喜悅樂。從テ筆ヲ下スト。但其喜ヒ人ニ分ツヘカラス。此勉礪<sup>ル</sup>ヲ<sup>シ</sup>。若シ<sup>ク</sup>。注・カッコ内は上<sup>ニ</sup>。中<sup>ニ</sup>。下<sup>ニ</sup>。以テ他ノ和漢<sup>ノ</sup>。學藝ニ精力ヲ竭<sup>ス</sup>。此勉礪<sup>ル</sup>ヲ<sup>シ</sup>。若シ<sup>ク</sup>。注・カッコ内は上<sup>ニ</sup>。中<sup>ニ</sup>。下<sup>ニ</sup>。以テ他ノ和漢<sup>ノ</sup>。學藝ニ精力ヲ竭<sup>ス</sup>。

彌の書込み  
サハ自ラ一家ノ先生  
トモ仰カルヘントヤ<sup>×</sup>

亦獨笑ニ附ストイフ然レモ其成ル所  
ハ即チ日用切近ノ奇方良術。吾輩得テ珍重スル所ノモ  
ノナリ。故ニコレヲ他ノ學藝ニ比スレハ十日一日ノ業  
ト相同ク。」<sup>3</sup>オ 五葉ハ五十紙ノ切ニ倍スヘシ世ノ達士  
才人。稍々此學ノ一班ヲ窺フモノ多シトイヘモ中道ニ  
ノ廢シ。始メアリ終リアルモノ少シ。特天下我カ二三  
夫子ノミ。其名聲海内ニ藉々タル。實ニ天縱トイフヘ  
シ。コノ九譯ヲ重ヌル遠西鑿術。實詣ノ精説。モトヨ  
リ日常耳目ニ慣ル、所ノ書ヲ解述スルト同日ニ語ルヘ  
カラス。シカルヲ人コレヲ草草ニ看過シ。輕忽ニ讀ミ  
下シ。譯者ノ困苦ヲ察知スルコト<sup>3</sup>ウナキ。豈ニ悲シカ  
ラサランヤ。彼雜編ノ如キハ。先生嘗テ余輩ニ示ス。  
古ニイフ欲<sup>ル</sup>成<sup>ト</sup>ニ一事<sup>ツ</sup>者ハ減<sup>セ</sup>ニ一事<sup>ツ</sup>。トコレ慎ミ守ルヘ  
キコナレモ。唯余カ好事ノ性癖。已ミ止ムヘカラサ  
ル。識者ノ笑ヲ取ルモ。敢テ辭セサル所ナリト。シカ  
レモ此類多クハ喫茶吹烟ノ間ニ成ルモノニシ。其精  
力ノ有餘。感嘆欽羨ニ堪サルナリ。但深ク此ニ意ヲ注  
カサルモノナルヲ以テ。故紙片楮。アルニ任セテ。

其雜草ヲ屬スルノ<sup>4</sup>オミ。塾生其散逸ヲ惜シテ傍ラコ  
レヲ請テ繕寫シ亦編ヲナスモノ多シ。然レモ本業ノ譯  
書雜編。共ニ尙ヲ未定トイフヲ以テ漫ニ人ニ告ケ世ニ  
示サス。竊ニ先生ノ意ヲ察スルニ。人或ハ勉強ニ誇ル  
トイフノ毀譽アラソコヲ恐レ。且良工ハ示<sup>ス</sup>レ人<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>以<sup>レ</sup>  
樸、イフノ確言ヲ守リ。ソノ公行ハ身後ノ計トニ遺<sup>コ</sup>ス  
ナルヘシ。如レ此精神ヲ勞スル。非常ノ一難事。先生  
ノ如キ篤好達識ノ人ニ非ラサレハ。イツクン<sup>4</sup>ウソ得  
テ爲スコアラン。シカリトイヘモ。人或ハ其事未タ全  
ク成ラス。其切ヲ見サルヲ以テ。世ニ蘭學者流トイフ  
モノハ。唯異字ヲ誇説シ。殊言ヲ眩賣<sup>メ</sup>。庸俗ノ耳ヲ  
驚シ術ヲ售ルノミナリト知ルモノアルヘシ。他日校正  
全ク成ルノ時ヲ待テ。其勞ヲ知り。可否精粗ヲ取舍ス  
ヘシ。正迪<sup>オ</sup>曩ニ先進ノ同社トモニ。私ニ淨寫スル所ノ  
諸稿ヲ出シ。試ミニ其書目ヲ編次スルニ。累年ノ著  
書。若干冊ニ及<sup>5</sup>オヘリ。其大部ノ西書全編。治術ノ  
篇目。或ハ物産等ノ譯説ノ如キハ。其各篇ト品物ト其  
稿前後ニ成リ。或ハ臨時倉皇ノ際ニ譯述シ。其諸稿甚

タ繁多ナルヲ以テ。他日參考ノ用有ルニ當テ。一册一  
 譯ノ索メニ。百方反覆。書篋狼藉ノ煩アリ。小子爲ニ  
 請テ今盡ク其著述書目ヲ編輯ス。殊ニ解剖瘍醫ノ二新  
 書ハ已テニ成ルト。未タ成ラサルモノトヲ。(上欄)。分チ搜  
 索ニ便シ。且聊カ其切ヲ助ケントス。コレヨリ「5ウ以  
 往先生ノ遐齡萬年。其著撰幾ク百千トイフヲ知ル可  
 カラス。今也先生知命ニ近シ毎ニ自ラ嘆メ曰ク生涯ノ  
 業。他ハ姑ク置クヘシトイヘル。瘍醫新書譯說ノ大成  
 全功ハ則チ竣ヘズンハアル可カラスト實ニ此書ノ譯說

全ク成ル片ハ天下ノ外科者流其關係スル所ノ諸病治術  
 ノ大本立チ斯道世ニ始テ全備ニ至ルヘク吾輩生民ノ爲  
 ニ欣抃スルノ一大快事トイフヘシ千古「6オ未發ノ實測  
 ノ業コレ先生ノ手ヲ假ルニアラサレハ他ニ成スヘキナ  
 シ但コレ其二百五十篇ノ總目ヲ見テ卒カニ成シカタキ  
 ヲ知ルヘシ。此著書總目。余同社ト共ニ私ニコレヲ展  
 觀シテ。各々志ヲ立ルノ繁砥トナサハ。浩博ノ書冊。  
 精微ノ義理。其萬一ヲ庶幾フヲ得ンカ  
 文化改元甲子秋 塾生 西嶋正迪謹識「6ウ

磐水先生著述書目

印(早稻田  
文)早稻田

門人 南越 西嶋正迪俊庵 編錄

翻譯和蘭醫籍部

●重訂解體新書譯書印本五卷最後杉田先生有再校之舉

磐水先生重訂續譯

全編二十八篇自「解剖大旨」至「筋篇」卷首考例新附一

卷。共至三六七卷。改譯草稿已成今專事重訂「7才

原本註證譯說草稿及。胸篇第十四註說亦當爲「五六

卷」

○印行書目

重訂解體新書(續) 十二卷 附言一卷  
圖一卷

蘭晚摘芳 三卷

蘭學階梯 二卷

和蘭分量考 一幅

六物新志 三卷

八刺精要 三卷「7ウ

七不可附錄 一卷

瘍醫新書 八卷

蘭學佩鱗 一葉

金海鼠記 一卷

接花痘 一卷

蘭說辨惑磐水夜話 二卷

薦錄 三卷

同附錄 一卷

○脫稿書目

薦錄 三卷「8才

蘭晚摘芳目次見「子後」 五卷

怪病啓蒙 一卷

勿擣茶的里亞加主療譯說「1」

○起草譯說類

泰西醫說 二卷

蘭譯要訣 一卷

(蘭外藤ぼかま) 蘭譯梯航

永登ノ實測ノ業コレ先生ノ手ヲ假ルニアラサレハ他ニ  
 放スヘキナレ但コレ其二百五十篇ノ總目ヲ見テ率  
 カニ放カタナヲ知ルヘシ此著書總目余同社ト共  
 ニ私ニコレヲ展觀シテ各々志ヲ立ルノ際石トナ  
 ハ浩博ノ書冊指微ノ義理其万一ヲ庶幾フテ得  
 シカ

文化改元甲子秋 塾生 西嶋 正迎 謹識

磐水先生著述書目

門人 南越 西嶋 正迎 編録

翻譯和蘭醫書部

●重訂解體新書卷第甲本五卷最後抄田先生有再校之舉

磐水先生重訂總譯

全編二十八篇自解剖大旨至曲論卷首考均新附一

卷共至六七卷改譯草稿已成今專重重訂

翻刻・磐水先生著述書目

「磐水先生著述書目」 第7丁表

「磐水先生著述書目」の〈引〉 第六丁裏

遠西漫說譯草	八卷	一卷	8ウ
底野迦集說	十二卷	一卷	
大西徽瘡方	十二卷	一卷	
既濟機用法	十一卷	一卷	
西方本草主療撮要	一卷	一卷	
沙緬斯不蠟蛤和蘭說話和解	六十回		
魚王譯史	三卷		
神物知新	十二條		
鉾金考證	十條		9オ
和蘭人參傳	五卷		
遠西醫源	三卷		
解體新書 <small>翻譯名義</small>			
不遂良方 <small>蟻酒</small>	諸金輕重比例		
明目新聞	十六卷		9ウ
新 瘍醫新書總目			
第一卷之上			
首編 上疏 序	○總目		
外科入門大綱	五十條		
	○自第一條至第九條譯已成		

上之一

△各篇數件上頭加レ圈者譯已成矣無レ圈而姑闕ニ幾個番數ニ者未レ下レ手

創傷部

△此部杉田先生起レ草未レ經ニ重訂一

創傷證治總說第一

創傷諸證第二

出血奔迸一

痛疼二

神經掣引三

創傷發熱四

撞傷第三

下體傷第四

腹傷縫合第五

腹傷并縫合法第六

斷腸第七

腸網張出第八

下體諸傷要法第九

胸傷第十

頸傷第十一

頭傷總訣第十二

「10才

「10ウ

面傷第十三

頭傷險症第十四

療腦蓋陷沒法

除下潛ニ伏腦蓋下一敗血ニ法

隔皮絡傷第十五

毒傷第十六

上之二

骨傷部

骨傷總論一 十八條

並療法自十九條至三十九條

骨傷諸證第二 十二條

骨傷區分第三

療鼻骨傷法 四條

下顎骨傷第四 五條

鎖骨傷第五 或及于肩胛 十一條

肋骨傷第六 並椎骨 十一條

上臂及下臂骨及腕骨傷第七 十條

股骨傷第八 八條

「11才



○ 膝蓋傷第九 五條

○ 胫骨及足跗諸骨傷第十 二條

上之三

關節脫臼部

○ 脫臼總論第一 十九條

○ 治術要論第二 七條

○ 腦蓋並鼻骨脫臼第三 三條

○ 落架頰第四 五條

○ 項椎及脊椎骨脫臼第五 十條

○ 鎖骨肋骨並骺骨脫臼第六 八條

○ 肩胛併膊骨脫臼第七 六條

○ 臂骨脫臼第八 五條

○ 腕骨及指骨脫臼第九 五條

○ 股骨脫臼第十 十條

○ 膝及膝蓋及內外胫骨脫臼第十一 五條 12オ

○ 脚腕及跗骨脫臼第十二 八條

上之四

腫瘍部

○ 腫瘍總論第一

○ 外部癰腫瘍第二

○ 消散方法

○ 膿瘍第三

○ 婦人乳房癰腫瘍第四

○ 陰囊癰腫瘍第五

○ 羅斯第六

○ 勃鹿鐸形能第七

○ 耳下及股縫。機離鹿腫第八

○ 萊斯多白乙冷第九傷寒發願

○ 疫癘預防并瘍科者流於ニ疫癘諸症治療之際自

○ 避ニ其感染ニ之正法第十

○ 萊斯多歌冷第十一疫毒炭黑

○ 濕毒第十二

○ 凍風凍跟第三 塚皸塚凍膚皸裂寒傷  
肌死患耳足凍瘡

○ 寒毒焦。火毒焦第十四

○ 湯潑火燒第一

○ 頑結瘍第

蝦腫第 (九) 所謂

修骨砒西羅摸一名窓の鹿業辭物兒冷第 (一) 〇

膝贖輓腫第 (一) 〇

上之五

潰瘍部 (一) 〇

膿腫及潰瘍第 (一) 〇

漏及膿管腫第 (一) 〇

惡因頑瘡第 (一) 〇

濕毒腫第 (一) 〇

睡厚瘡第 (一) 〇

辨腫瘍因被誑惑ニ失中治法上第 (一) 〇

足脛潰經久不治症第 (一) 〇

附骨膿腫及骨蝕第 (一) 〇

文鐸隆靈第 (一) 〇

濕爛頭瘡第 Δ 至于此篇 杉田先生譯草已成未經重校 (一) 〇

第二卷之中

次編序領 (一) 〇

中之一 (一) 〇

手術部 人身諸部以手術施治者類聚悉收于此部

刺絡總括第一 (一) 〇

肘中刺絡第二 (一) 〇

腕中刺絡第三 (一) 〇

足跗刺絡第四 (一) 〇

額肉刺絡第五 (一) 〇

目皆刺絡第六 (一) 〇

頭頸刺絡第七 (一) 〇

舌下刺絡第八 (一) 〇

陰莖刺絡第九 (一) 〇

諸部刺絡誤傷第十 (一) 〇

神經及筋誤傷治法第十一 (一) 〇

腕後及諸動脈誤傷治法第十二 (一) 〇

動脈傷及怒脹腫第十二 (一) 〇

刺絡嵌管接ニ他人之血ニ法第十四 (一) 〇

接痘第十五 (一) 〇

吸玉碗第十六 (一) 〇

蜚唾第十七 (一) 〇

14 才

13 才

14 才

○ 經那日本通用鍼刺法第十八

○ 打膿泡要法第十九

○ 施<sub>三</sub>元青及打泡諸法方<sub>二</sub>第二十

○ 水銃射入法第二十一

○ 烙鐵協法及燒器第二十二

○ 灼艾第二十三

○ 用腐藥法第二十四

○ 穿破膿腫法第二十五

○ 疣瘡第二十六

○ 除去贅痣法第二十七

○ 內膜包結。糊蜜豬脂盲駝鼠龜諸瘤第二十八

○ 除<sub>三</sub>去諸種<sub>レ</sub>外物拒<sub>三</sub>留創中<sub>二</sub>法第二十九

○ 合封創傷法第三十

○ 切<sub>三</sub>開放<sub>三</sub>斷手<sub>スル</sub>手指又湊著者<sub>スル</sub>法第三十一

○ 餘指三十二

○ 切<sub>レ</sub>斷手足指趾爲<sub>三</sub>肌死朽腐<sub>一</sub>者<sub>上</sub>法第三十三

○ 切斷膊臂腕法第三十四

○ 切斷足附及脛骨法第三十五

○ 切斷股骨法第三十六

○ 切斷胛膊樞機之處法第三十七

中之一

係于頭部手術

○ 巔頂直縫打膿泡第

○ 顯顛動脈傷治法第

○ 頭顛包水腫第

○ 鑽腦蓋法第

係于目部手術

○ 取去諸物入眼法第四十二

○ 眼胞腫第四十三

○ 眼胞菌毒第四十四

○ 誤<sub>三</sub>治<sub>レ</sub>眼胞腫<sub>二</sub>療<sub>スル</sub>上<sub>三</sub>臉脹隆<sub>レ</sub>而爲<sub>二</sub>醜狀<sub>一</sub>法第四十

五

○ 倒睫拳毛第四十六

○ 眼瞼閉塞第

○ 因<sub>三</sub>誤治<sub>二</sub>眼瞼內<sub>レ</sub>赤皮翳<sub>レ</sub>外之症治法第

○ 目皆腫發第

〔 15 才 〕

〔 16 才 〕

〔 15 才 〕

眼目刺絡第

眼及眼瞼內發瘡第

刺眼中法第

淚目第

隨淚眼為漏及其附屬諸症第

眼目諸症手術

內外障諸症第五十五

角膜上翳膜第

眼點第

角膜起發第

眼目結膿第

刺三角膜一瀉二凝血二法第

治眼目腫大怒脹為水綿狀成蝦腫者法第

裝眼第

欵目第

係于耳部手術

穿開初生小兒耳竅有膜閉塞者法第

諸物入耳第六十五

耳中諸瘡第

齒痛耳前施烙鐵法第

以器助聾法第

垂珠穿小孔法第

係于鼻部手術

鼻竇第七十

鼻淵第

儀鼻第

穿開鼻孔閉塞法第

係于唇部手術

禿口第

唇癌第

係于齒牙手術

切齒口噤第

淨潔齒牙法第

齒牙空陷第

止齒痛法第

整頓齒牙崛起法第

拔牙法第

突起  
睛高

「16ウ

「17ウ

「17才

挿齒第

係于齒齦部手術

療小兒咬牙破齦肉法第

齒齦腫發第

齒齦掀腫序

係于舌部手術

捺<sup>スル</sup>三下舌<sup>スル</sup>一法第

切<sup>スル</sup>二斷舌帶<sup>スル</sup>一法第

舌下蝦蟆腫第八十八

舌癰舌痛第

上腭膿潰第

固下閉上腭穿竅通<sup>ニ</sup>鼻中<sup>ニ</sup>者<sup>ト</sup>上法第

係于懸壅垂及扁桃機離鹿部<sup>アマンデレンキリル</sup>一手術

懸壅腫第

扁桃掀腫施針法<sup>名之曰</sup>一法第

穿破扁桃膿腫法第

扁桃固結腫第

治<sup>ル</sup>下自<sup>ル</sup>二口後<sup>ル</sup>二至<sup>ル</sup>二扁桃<sup>ル</sup>一腫發<sup>ル</sup>上法第

翻刻・著水先生著述書目

18オ

導<sup>ニ</sup>取<sup>ル</sup>「涎機離鹿結腫」法第

中之三

係于咽喉及頸部手術

取<sup>ル</sup>下<sup>ル</sup>去魚骨及骨梗及核仁或針在<sup>ニ</sup>喉中<sup>ニ</sup>者<sup>ト</sup>上法第

拭<sup>ル</sup>二淨胃中黏物<sup>ス</sup>一法第

使<sup>ル</sup>下<sup>ル</sup>頭頸歪斜者<sup>ト</sup>正直<sup>ス</sup>上法第

穿開氣管法第

鵜瘤第

頂窩施<sup>ニ</sup>法乙兒斯奴兒<sup>ハイルスヌイル</sup>一法第

中之四

係于胸背部手術

使<sup>ル</sup>突<sup>ル</sup>下<sup>ル</sup>起乳頭陷沒者<sup>ト</sup>並吸<sup>ニ</sup>出乳汁<sup>ス</sup>一法第

乳頭坼裂第

乳癌第

穿<sup>ニ</sup>開胸膛<sup>ス</sup>一法第

鑽<sup>ニ</sup>胸骨<sup>ス</sup>一法第

駝背第

中之五

佝僂

19オ

係于小腹部手術

19ウ

斷臍帶法第

穿透肚腹一法第

解三部妊婦屍體一取出兒胎一法第

諸部破綻膿潰治法

臍破裂第

腹破裂第

股縫破裂第

納下腹破裂張出難入法第

膀胱破裂第

陰囊並腸破裂第

腸破裂破裂第

皮肉破裂序

陰囊包水腫破裂第

○陰囊包水腫第

陰囊水裂及肉裂第

腸水裂第

陰囊氣泡腫破裂第

精脉破裂第

○ 辜丸寒毒焦及蝦腫第

係于陰莖部手術

開調包皮一法第

治包皮緊縮不覆陰頭二者一法第 121 廿八

陰莖寒毒及蝦腫第

使龜頭下蠻度緊急者一弛緩一法第

陰莖疣瘡第

開割馬口固着二法第

石淋小水淋漓第

石淋探候膀胱中一法第

尿道中肉樣腫發第

自尿管中一導一淋石一法第 121 三十七

取淋石一諸要法並用器舊法第

同新法第

開割陰處一取膀胱上邊一法第

勃鹿牒兒牙歌不名新術取淋石一法第 121 才

小水閉塞推一開尿口一法第

○ 會陰膿漏第一百四十三

係于陰門部手術

開ニ割陰門唇固着ニ法第

療陰中贅肉爲闊隔者法第

治廷孔長大者法第

治兩小肉翅長大者法第

子宮瘻肉第一百四十八

石淋症自膀胱中導出其石法第

妊婦諸法

難產諸術及胎未死者等諸法第一百五十「21ウ

挈ニ出死胎ニ法第

崩漏第

攀ニ曳胞衣ニ要法第

療子宮發怪症法第

子宮脫第一百五十五

陰挺出第

小水淋漓第

會陰破裂第

係于尻臀部手術

水銃導藥法第

坐藥第

穿開肛門固着法第

脫肛第

肛門發

痔血第

內痔第

痔漏第

尻臀膿潰第

中之六

係于手足部手術

代指甲疽第

筋結第一百六十九

縫合手部筋腱法第

縫合足部諸筋腱及匈鐸亞吉里斯筋腱法第

靜血脉怒脹腫第

脚大胨。趾甲。固着療法第

雞眼第

「22オ

「22ウ

療脛脚屈曲法第

第三卷之下

繃帶部 外治諸症裹帘縛法式例

繃帶總論第一

頭部繃帶第二

頭頸繃帶第三

胸部繃帶第四

鎖骨損傷及脫臼縛法一

肩及肩胛縛法二

乳房縛法三

胸骨及肋骨縛法四

腹部並陰處諸部繃帶第五

手臂諸部繃帶第六

足部繃帶第七

施下股及脛骨傷兼ニ創夷ニ者上縛法第八

總計二百五十篇

目次畢

○蘭腕摘芳初編全十卷

屬於譯說雜稿

豐間 蓮沼清緝筆錄

土浦 山村昌永校訂

○卷之一

水牛 食火雞 駝鳥 麝 犀尾牙

貝多羅 獅 虎 唵蒲里哥

○卷之二

麒麟 鳳凰

○卷之三

杜松 風鳥 野牛

駝鼠 孔雀尿 亞泄里

獅譯說 杜鵑 牛酪

蝮蛇 泊夫藍主治 オクリカンキリ主治

一角 コシネルラ 龍涎香

阿片 阿魏

○卷之四

蓬砂 月桂同實 牛蒡

「23ウ

(二四丁は遊び紙)

「25オ



大葉櫟 馬錢 蛇皮木

亞蒲羅撒答蒲羅 投濱田藩臣藥方

工設爾花 茴香酒 牒片

可摸可摸斯 疾亞八兒麻 和蘭七州

亞武斯的兒覃 理圍古突悉吉不

北羽人所藏蘭文譯言 [25ウ]

○卷之五

海椰子 多羅雜譯 榕樹

巴旦杏 麻黃 火炭母草

○卷之六

吸毒石 鮮答 カナノヲル

的里亞加主治 火浣布 含生草

蘆薈 龍葵 伽羅

○卷之七

烏賊 蛇皮木 オランウ、タン

莫大海 驢 雙尾蜥蜴

蘇木 鯨糞 龍涎香

イペカクワアイコツヒ 西舶貨物 [26オ]

翻刻・磐水先生著述書目

亞謨斯的兒覃史錄題號譯 仙人掌

夏枯草 羊蹄同種族 黃

椰樹 喝叭布刺驢馬 イケマ

ケルレン 贈葉叟堂書 航海約説略譯稿

拂郎察鏤版貴婦人像圖下譯文 テツチンキ贈

淳庵書

安息香 沒藥 地生羊

○卷之八

阿利穢樹 杏 「オランエアツベル」 笠間 長谷川興宗僊筆錄

「アダムスアツベル」「ソドムスアツベル 象

「カナアリアヤ鳥 佛手柑樹 龍涎香 [26ウ]

「キヤマン石 水晶 雌黃

草零陵香 「キユルコボーム」「ベルレンブラア

ウ」

地榆 汗画 「アラビーセ・ゴム」

染猩々絨小蟲説 「アンチュスバス・モージールカ」

「エムブラストリウム・デヘンシヒウム」 汞丹

水藥 阿片 杜窟福鳥篤

○卷之九

百藥煎 噫治方法 驚風

「エーデルレーヘルコロイト」「シヨコラータ」

藥ヲ服セズ飲食ヲ進ムル法 兒島生・母子草上之説

「27オ

土佐海漂桶考并圖 錢貨

釋迦之名

○卷之十

解<sup>スル</sup>中<sup>ニ</sup>修<sup>ラ</sup>蒲<sup>ヲ</sup>力<sup>ヲ</sup>首<sup>ヲ</sup>空<sup>ト</sup>多<sup>ク</sup> 革<sup>コ</sup>鹿<sup>ル</sup>魯<sup>シ</sup>悉<sup>イ</sup>乙<sup>フ</sup>弗<sup>ノ</sup>毒<sup>ヲ</sup>ニ諸<sup>ノ</sup>方<sup>ヲ</sup>

西洋參 辨妊娠男女法附重胎脫

絶學丸法 十二官 得鯨魚耳底骨説並

生族腦石骨考 長岡侯藏匾額贊譯文

十二月異名 沒食子 附加爾窠苦集説

吃逆治方 「シユルフル」即石硫黃

右十卷校正ヲ經サルノ原稿ニ係ル最後其數品ヲ  
擇取テ修文シ諸圖ヲ附セリ以テ六物新 「27ウ

志ノ續編トナサントシ分テ四卷トナスコレ人ノ愆

憑ニ因テ再校成ル所ナリコレ先生他見ヲ許シタマ

フモノナリ行々將ニ木ニ上セントス其目左ノ如

シ

○卷之一

蘆薈 白藿 海椰子

○卷之二

杜松 月桂 迦兮 含生草

蛇皮木 馬錢 莫大海 多羅葉

榕 蛤納諾兒 逢砂

○卷之三

火浣布 吸毒石 鮮答

蝟姑 火雞 駝鳥

杜鵑

○卷之四

麟 鳳

○卷之五

麝 水牛 犀

獅 虎 驢

阿郎惡鳥當

〔28ウ〕

○蘭畹摘芳次編

○卷之一

笠間 長谷川興宗僊筆錄

伊吹コメ草 百合 肉豆蔻扶

石油 膽汁 口苦西説

鳩鹿摸斯生國 ルサラシ

解虫阿片毒方 鹿角主治

ヘムミイ墓碑 スペルマセチ

メルクステーン ロギア

麻辣襪爾本草題名 オルゴル貼紙譯草

扁額戒語譯

家藏スピーゲル肖像扁額下ニ記スル文〔29オ〕

名酒名 油藥名 南海録異〔日晷因ニ加納公之

請ニ所譯〕

鐘樂臆脱爲一編

翻刻・磐水先生著述書目

○卷之二

記年鳥 巨吻鳥 即伯西爾喜鵲

ズボウト又痰切 阿魏眞臭

沙兒靴八力爾蠟 鉛白糖製法

加那姥兒譯考 答南部伯民書爲一册

野生アツペルボーム

野生アツペルボーム

血竭 安息香 蘇合香

蘇合油 沒藥 漏蘆

診脉法 大黃 氣船

○卷之三

駝鳥 記年鳥 巨吻鳥

城邑圖考 雀錫 沒藥

漏蘆 岡本上書贅言

三十二品鑒定考略 撥古福鳥多

○卷之四

盤水蘭山兩先生問答 赤縣輿圖辨誤

南部伯民疑問并答書 答所示琉璃界尺書

弼離力考

卷之五

神物知新

鐔金考證

明目新聞

羅鍼概言

和蘭痲疽說

附健胃丸藥劑考證

卷之六

寒地病案

西洋尺度考

日本紀事目錄

不遂良方蟻酒

榮蘭考證

獨祿傑列印譯說

駟錄

ホントロト鉛水銀逢砂

卷之七

海人譯說

30

南瓜考

殺生石考

「タウアニス、コムメリクニン」

「ミリンカ」

皮革ヲ美潔紅色ニ染成ノ法

西國米

瑠青發微

琉璃私考寛政壬子

鉛白糖製法

「アツプルボーム」

多模拔古

作代蓬砂法

卷之八

西洋鯨品譯說

文化戊辰八月

倭鉛 野羊功能

「カセイタ」「セイリユピ」ジアコジイ

「ゴムアクチゲ方」苺類略辨

「タマリンジ」オレウム カヤ ブチ

「サビナ」ゲメキネ インキト

噎列吉悉力西的西洋尺法

「ラービスインヘリナス」マクネシア カルバ

毛布譯說附言救溺經驗新方

卷之十

果然 メールカツト湖貓

「シキツリユムマリア」ゴムアクチゲクニイク

「セイリユピアジアコジイ」シケイルソンゲシユ

ルレ ケルヘル

駱駝之圖 「ラランウ、タン

癆瘵質之說

海上備要方所載汗画製造并用法

鴿 鴉 烏賊骨 鯨勢 蛇退皮

ひきかへる 水蛭 葛上亭長 蛤蚧 蟻

響銅 年番所寄様江

與北越幸庵高峯生書  
琉璃私考

翻刻・磐水先生著述書目

「30ウ

蘭畹摘芳初編 十卷

同 次編 十卷

同 三編 十卷

同 四編

三編卷之一

金說撮要

食火雞

アツサフーチダ フリュテギス

内科選要藥品

熊膽眞偽試法

綿羊譯說

番蓮子

卷之二

海象牙氷解

木落斯考證

河馬譯說

參考補譯海狗說

「31オ

一角臆斷

卷之三

西洋新元考

救溺論泰西醫方新聞

種痘癸西新譯震百里

癩癩同

兒舌上蓋接着同

疔同

避痘癥法同

防火傷痕法同

水脹同

脛皮發火同

舌根生蟲同

暗處發光同

男子陰器篇究理解體則拔翠

辜丸動脉篇同

精動脈官能篇同

副辜丸及狹窄管篇同

精囊論同

論陰莖同

論陰莖血脉同

論神經同

論液同

婦人陰具同

陰莖論同

子宮論同

卵巢論同

月經至ル時乳房勃起スルヲ論同

嘔吐水製造譯說

(同合説―抹消) 削墨兒譯說

嘔吐水造法和解

卷之四

骨質精究補譯

天狗爪石雜考拙攷

交趾土產伽羅燕窩

大鯊奇語

生鹿角主治

「マルテンキウ

榲桲<sup>ズ</sup>抽攷

人面瘡私説

卷之五

アンテスパスモジカ

ハレリアナ

タマリンデ

馬場爲八郎ヨリ來ル野羊奇驗文通

喘息諸方シヨメール抄録

同胸ヲ強壯ニスルノ良方

卷五

白歇盧物吉乙軟和骨

非廬達奴斯一方

バルセムアルカエイ方

水鎧原文並譯草

酒戒西哲法烏留斯原文并切意

妊娠分辨男女法

翻刻・著水先生著述書目

雞冠花

和蘭贊語譯草

下劑

茜根

拳參

テ、トイント梳具臺

福録シマウマ

タバコドース一關侯藏

眼丹モノモライ

カルカリア軟骨魚類

ベツシンゲン

天工祕蘊<sup>卷中</sup>五十七條下卷五十九條

瘞方發明

卷六

葡萄譯説

燒酒譯説

綿紙

木寓骨緣記

模骨呈案各務宗二

和蘭人參傳附言附錄

卷七

鸚鵡偽鸚

釣樟 タルタリニス

エツテルマーケンデ、カールシース方

エムプラストリユムジアケキリュムキユムギユム

三方

アキスタラクトマルチスポマチ

鹿角 臺灣

亞鉛 ビュスミユツト

響銅 王水コーニングワートル

強剛水ステルキ  
ワートル ウイツテトムバク

爐甘石 コバルド

マルカシート スマルタ

篤耨香 丁子

蒸餅 蛤蚧

コロホニム カルシユースベネジクチュス

蘇木 ハルヌ  
脂涙 西洋數計九字記號

レンナ ギユムミ 膠ゴム

卷之八

菌桂 伽楠

硃砂 印魚集說

加豆良乃木雜記

ホリコス狸貓考

寢子覺眠雷獸考 附記  
丹洲漫考

異獸丹洲拙考

異鳥羽皮臆說ヘングイン同考

卷九

毯子機譯說

獻鼻譯說

鐵主治

多羅葉略說鎗夏隨筆

鯨船異聞

魯西亞算學手引草數目

西洋錢貨考



<p>卷之二          蘇雅 如神          確切 如神          百言 如神          本言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神</p>	<p>卷之二          蘇雅 如神          確切 如神          百言 如神          本言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神</p>	<p>卷之二          蘇雅 如神          確切 如神          百言 如神          本言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神</p>	<p>卷之二          蘇雅 如神          確切 如神          百言 如神          本言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神</p>	<p>卷之二          蘇雅 如神          確切 如神          百言 如神          本言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神</p>	<p>卷之二          蘇雅 如神          確切 如神          百言 如神          本言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神          萬言 如神</p>
--	--	--	--	--	--

第32丁 裏

卷十  
 文政壬午秋月天行厲氣揮霍撩亂病襟記  
 フレックバンド  
 武禮高久蟬度考證并圖  
 鯉魚考

第33丁 表

先考碧水府君所編述。蘭畹摘芳。多係物產之學。旁及奇事異聞。蓋自寬政。至文政。凡四十餘年。涉獵西書之際。自錄其所發明。參以和漢諸說者也。初編十卷。早已爲世所知。繼得次編十卷。三編十卷。皆係長谷川宗仙筆錄。其第四編。則脫稿僅三卷。而先考即世。楨不肖。就遺草中。擇所其係物產者。得九卷。併以爲四編十卷。附錄二卷。通前三篇。凡四十二卷也。自其文政丁亥。先考溢焉之歲。至今玆天保二年辛卯。凡五摸裘葛。而得就緒。其校錄之業。則實宗仙之力云。宗仙名興。笠間侯侍醫。吾門高足弟子也。

是年十月望前三日  
 茂楨謹識  
 一 32 〇

四編目錄

卷一

駱駝問答

橐駝譯說諸圖并附  
本然精理論

駝圈

駱駝圖略附雜記

封牛

ハジリ膏

馴鹿考證

西醫レツテキ眼病案

鯨鯨蟲圖說腹

河豚問答

卷二

麝香餘考

鷓鴣考附記

枕榔附說

瓜加太刺芋圖考

鯪鯪ビユホン眞圖

椰嫩葉

技ホナ低魚諸圖考證寫眞  
圖

卷三

酒艫黃精萎社

ジルラ

御用和解物草案

燒つけ給

卷四

細長蟲說

舌診

暗室術考

支彌亞シマ

練鉛爲灰法

骨祕兒的爾書說抄

レエイデン

蘭文并切意

卷五

廣參發蒙上

卷六

廣參發蒙下

卷七

怪痾啓蒙

婆羅門參寫眞

仙桃探花無花果

弓材考

突孤飛力圖說

卷八

龍涎發香上

卷九

龍涎發香下

卷十

千載木材質鑒定考證トロノキ文化十四年丁丑

水虎雜集

卷一

卷二

金海一珠

○與<sup>カル</sup>三校正<sup>ニ</sup>譯說書目

、岩松碩產科蘊要 翻譯

、山昌永重訂增譯采覽異言

、宇榛齋遠西醫範<sup>二十卷</sup>並<sup>ニ</sup>提綱釋義 三卷

、淳庵遺託和蘭局方 松延玄之續譯 十卷

、紅毛語譯 萬象亭

、漂南新話 批評

、伐柯編

、彰考館和蘭譯語

、和蘭鑲版新製萬國地球全圖譯說

、海上備要方 和蘭藥撰 月池

〔33ウ(裏白)〕

〔33才〕

〔34才〕

圖西

附 錄

翻刻・碧水先生著述書目

(朱以下同)

、泰西輿地圖說 彩雲堂龍橋公

、醫事直語序言附

、養生七不可

、和蘭醫事問答 序言附

共天真樓

、遠西本草攬要 西文譯例

軍艦圖解

、炮術備要 四卷

○和蘭冠履辭考 二卷

、慈石概言(欄外 羅鏡)

○、海程測驗器集說

北夷考證

○、東北韃靼圖志野記 雜記

六卷  
「34ウ

○雜著並編輯書目

不拘編錄年序

留塾漫錄

二卷

、畹港漫錄

七卷

、潤巷漫錄

二卷

榭蔭漫錄

一卷

子煥子漫筆

二卷

瓊浦紀行

一卷

西游雜記

一卷

窺奇四大 二卷

興行日誌 一卷  
「35才

徹柔錄 一卷

養才活法 一卷

熱海游志 二卷

中山聘使錄樂器圖附 一卷

、磐水漫草 詩文集 二卷

溫泉纂考 一卷

、西客對話 一卷

太平新聞 一卷

西湖紀聞 一卷

乙卯震雷記 二卷

慎初錄 一卷  
「35ウ

蘭說辨惑追加 一卷

十數異言 一卷

懷中掌記 十卷

卷懷雜誌 一卷

廣參存疑 一卷

天水蘭山本草紀聞 一卷

道の秋 一帖

肉牴雜記 一卷

槻の落柴 一

家紋萬字考 一卷

荒湯浴遊道の落柴 一

山形蠢動記 一卷

散華集 一卷

漂南聞略 三卷

哀々集 一卷

廣船襍記 一卷

菟伎乃片枝 二卷

訂正四十二國人物圖說 一軸

北窓醫話 一

地悶漂船口供並人物器械圖 同

金莖玉門 一

醒世諭言 二卷

萬國字類 二

靈蛇田道公墳始末 二卷

八荒錄異 一

癸亥七月長崎入津蠻船紀事 一册

東奧地名私考 一

醫商 蔽扒續編 一卷

校補昆陽漫錄 六卷

燒嗅 一卷

昆陽蘭說辨正 二

玉浦唐錦 共係于戲作 一卷

鯨獵叢話 三

消日贅言 一卷

麻疹啓廸 附譯說 五卷

芝蘭方函 三卷

大光魯西亞紀聞 一

白癡論 一卷

魯西亞入貢紀事 一

長平無人島紀聞 一

長平無人島紀聞 一

翻刻・磐水先生著述書目

、身幹正的

二卷

盲曆附記

一卷

過食傳 係于戲作

一卷

微瘡握機訣附說

二卷

蘭瘦隨筆

一卷

嵯峨釋尊緣記 附記傳來考

一卷

竹山逸史評拔翠

一卷

芝蘭芳翰 答辻信州書

一卷

外科 缺 (ハサミ(朱書))

一卷

櫛蔭餘材

一卷

癩風方彙

一卷

深祕六方 附衲子禁方

一卷

櫛蔭雜志

一卷

三國祝章編集序說

一帖

智光遺事 並 鷹影篇 (花實錄)

一卷

菱屋生没示蓑女書 (見七酒)

一卷

文化二年乙丑

太閤

磐水夜話追加

三四年寅卯

、環海異聞 十六卷 地圖數幅

、捕影問答 前後篇

斷辜集說

中秋陰闇

北邊探事 完 同補遺四卷

寒地病案

一驚一笑

廣參存疑

有暇の記

印 大槻文彦藏

「38ウ